

保護者の皆様

 南アルプス市立櫛形西小学校
 校長 野中 るみ子

平成29年度 後期学校評価の結果について

大寒を過ぎ、寒さも一段と厳しいこの頃ですが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や、児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

【2】全体的な傾向

児童・保護者・教職員の3者ともに、ほとんどの項目で肯定的な【A】【B】評価が80%を超え、否定的な【C】【D】評価が20%を超えるものは、保護者アンケートの③「子どもは、家の仕事を進んでしていた」だけでした。また、前年度後期、本年度前期と比べても【A】【B】評価が増え、【C】【D】評価が減る結果となりました。

学校生活の楽しさの調査項目（児童：「学校は楽しかった。」 保護者：「子どもは楽しく学校へ行っていた。」）では、児童98%、保護者98%が【A】【B】と評価しました。また、前期同様、不登校と認定される児童はいないため、本校は現在、概ね「満足できる状況」にあると考えられます。しかし、今後一層向上するためには、楽しくないと感じている児童に対して、個別に対応策を検討したり、集団の在り方をさらに高めたりするなどして、よりきめ細やかな指導を継続していくことが課題と考えます。

【3】個別の分析

(1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力
③学習意欲・態度

学習内容の理解に関する項目（児童：「授業（学習）はわかった。」 保護者：「子どもは、授業の内容を理解できた。」）では、児童97%、保護者93%が【A】【B】の肯定的評価となり前期の肯定的評価より高い評価を得ています。これは前期同様、児童のまじめな学習態度や、少数でのきめ細かな指導、また、数々の有益な体験活動に基づいた学習指導の成果であると考えます。

本校では、学習でつまずきの見られた児童を対象に、放課後個別に補習を行う取組を継続して行っています。また、全校一斉に漢字と計算の学力診断もそれぞれ毎月行っています。これらの取組によって、児童の学習の定着の度合いがより詳細にわかり授業内容の充実につながるため、今後も継続して行っていく予定です。



また本校では、平成29・30年度南アルプス市教育委員会指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」の研究指定校として「他との関わりの中で、互いに学び合う児童の育成」～主体的・対話的な学びを通して～を研究テーマとして、教師一人一人の指導力向上をめざし、校内研究会や拡大校内研（公開授業研）、先進校での学びを繰り返し行ってきています。特にそれぞれの教員が提案授業を行ったり、講師を招き「主体的・対話的な学びについて」の研修会を行ったりする

1年生 家庭学習の手引き

家庭学習の内容は？

- 宿題
- 授業で学習したことの復習
- 興味・関心のあることを追求する自主的な学習

与えられた課題をこなす学習から、自分で目標をきめて、それに向けて取り組む学習へと進んでいけたらいいですね。

家庭学習時間のめやすは？ 「10分×学年+10分間」

1年生は、20分

こんな学習をしてみよう！

| | |
|--|---|
| <p>国語</p> <p>①教科書・絵本などの音読</p> <p>②詩・ことわざなどの暗誦 声に出して読みましょう。家の人に聞いてもらいながら読みましょう。</p> <p>③ひらがな・カタカナ・漢字の練習 お手本の字を見て、正しく書けるように練習しましょう。</p> <p>④読写・作文 好きな本や教科書の文をノートに書き写しましょう。 おもいっかたこと・心に残ったことなど、絵日記に書いてみましょう。</p> | <p>算数</p> <p>①たし算・ひき算の計算練習 計算カードをつかってもいいですね。</p> <p>②たし算・ひき算の文章問題</p> <p>③たし算・ひき算の文章問題作り 家にあるものや家の人の名前がでてくると楽しくつくれますよ。</p> <p>④時計の問題 ふだんの生活の中で、時計が読めるようにしましょう。</p> |
|--|---|

読書 絵本や児童書などの読書
いろいろな読み物をたくさん読みましょう。書語の本や科学的なことについて書いた本なども読んでみましょう。
○家の人に読んであげたり読んでもらったり、いっしょに読んだり交互に読んだり、いろいろな読み方をすると楽しいですね。

などして、校内での研修を充実させることが出来ました。今後は、研究指定2年目に向けて、今まで続けてきた本校の教育の良さを生かしつつ「他との関わりの中で、互いに学び合う児童の育成」に向けてなお一層研修を重ねていきます。

一方で、保護者アンケートにおいては、前期よりも肯定的評価は増えてはいますが、家庭で落ち着いて学習に取り組めていない状況が依然として高いことが、後期も浮き彫りとなりました。昨年度、県教委では「家庭学習のすすめ」《学びの甲斐善八か条》という冊子を全家庭に配布し、『確かな学力』を身につけるために家庭学習が極めて重要であることを伝えていました。本校でもこうした状況を鑑み、家庭学習の充実のための手始めとして、「家庭学習の手引き」に加えて「連絡帳の充実」の取組を各家庭にお願いする便りを配布しました。家庭学習については、学校と家庭がお互いに協力をして取り組むことが大切です。今後も児童・家庭に対して指導・啓発をますます進めていく予定です。

す。

(2) 思いやりの心もち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

※いじめに対する取組について

まず、いじめに関わることについては、児童同士の優しいお付き合いや、意地悪なことを繰り返ししないなどについて前期より肯定的評価が高い評価となり、どちらも95%以上が肯定的回答でした。残り数人の否定的回答をした児童に対しては、担任が事実確認と関係児童への指導を行ったり、保護者への連絡などを行ったりするなどして、当事者間で相互に理解し合えたことを確認できています。保護者からも「学校は、いじめを防ぐための指導を適切に行っていた」の項目で98%が肯定的回答を頂いていることから、いじめに発展するものではないと判断しています。

今後においても、いじめ防止は本校の最重要課題としてとらえ、小さなトラブルもいじめに発展する可能性を排さず、きめ細かな指導を継続しく所存です。

「こころ」を育てるための様々な教育活動については、どれも高い評価を得ています。特に、「全職員が児童に対する共通理解のもと、積極的にふれあい、適切な児童理解に努めることができた。」については、全教職員が【A】と評価しました。

この事は、本校はユネスコスクールの指定を受ける県内でも稀有な学校であり、周辺地域もユネスコエコパークとして世界に誇る環境を備えています。教育活動においても、その環境を有効に利用することができたことの表れと捉えています。また、その教育を効果的に支援する地域の教育力もまた大きな支えとなっています。

あわせて、本年度は道徳教育「郷土の文化と伝統を大切にしている人たちの努力を知り、郷土を愛する心を育てる教育」[4-(7)郷土愛・愛国心]の一環として、また、ユネスコスクールとしての取組の一つとして4年、5年、6年生を対象に、南アルプス教育委員会文化財課保阪太一様、高尾穂見神社崇敬会神楽部の皆様を講師に招き、地域に残る穂見神社、高尾の夜祭についての学習を行い、郷土の文化と伝統行事にふれ、それを大切にしている人たちの努力を知り、郷土を愛する心を育てる活動を行いました。



さらに毎年学校を開放して道徳授業を公開し、来校者から頂いた感想をもとに反省会をもつなどして、さらなる内容の充実を図っています。また、小笠原流礼法とも関わらせる中で、児童の道徳的実践力の向上を図っていきます。

一方で、携帯やスマホ(以下、携帯電話等)の保有率は、67%に達しています(児童回答)。家庭生活の多様化により、保有率は年々増加傾向にあります。携帯電話等の使い方の約束が決めてある家庭も89%に増加しています(前年度後期79%、本年度前期88%)。これは、本年度も、児童と保護者両方を対象にして「ケータイスマホ教室」を継続して開催したことも、数値の向上につながったと考えられます。今後も携帯電話等の利用のみならず、安易なネット接続が招く犯罪やトラブルに巻き込まれないために、継続して啓発活動を続けていきます。

(3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】

全体として高い評価でした。



児童の体力については、全国的に低下傾向が見られますが、本校においても走力は高かったものの、敏捷性や持久力については課題が残りました。これらの状況から本校では、外遊びの楽しさを児童に知らせることによって体力の向上を図ろうと、児童会主催の「縦割り班遊び」や昨年度実施した「元気アップ事業」などの取組により、児童の「校庭で運動や遊びができた」の項目は【A】【B】評価が向上しています。

また、児童の「食べ物を大切にし、好ききらいなく食べることができた」の項目では、今回は【A】【B】評価が90%を超え、給食指導に「もりもりカード」など、児童の意識付けを行ったことがよい結果に結びついています。

安全・防災については、昨年度から南アルプス市消防本部の協力を得ながら、教師による通報訓練(火災発生時を想定)や煙道体験を実施しています。煙道体験では、設営されたテント内に充填した煙の中を、姿勢を低くして避難する児童や、逆に高い姿勢のままで歩いたために、行き先を見失う体験をする児童など、実践的避難訓練として大いに効果のある機会とすることが出来ました。今後も、関係機関と連携をした防犯・防災訓練を続けていく予定です。



(4) 家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】

比較的高い評価を得ることができ、満足な状況でした。

地域の教育力や人材活用については、授業でのボランティア、PTA活動や登下校の児童見守り活動等を通して行われていて、これらについては3者とも大変満足していることがわかります。今後もこの活動が継続できるように保護者や地域の方々の協力をお願いします。



家庭との連携についても大変良い回答を頂きました。特に「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めていた。」「学校は、地域や保護者に対して情報を提供し、説明責任を果たすようにしていた。」「学校には教育活動に適した施設・設備が整っている。」の3項目で肯定的回答が100%でした。これは、職員による遊具その他の危険個所の修理や、あやめホール照明のLED化、非構造部材の耐震工事等、南アルプス市の事業を含め施設設備の整備を行ってきた結果だといえます。

また、日頃から小さなことでも家庭と情報を共有したり、保護者や地域の方々の意見や要望に対しては、真摯に耳を傾け、実現可能なことについては早く誠実に実行したりしていくよう努めてきました。今後もこの良好な関係を維持発展していくため、様々な手段で本校の教育活動について積極的に情報発信していく所存です。